

地域有志による保存活動が次世代へバトンをつなぐ

蓮台寺地区の天神神社境内に納められている大日如来坐像（下田認定まち遺産）が1年の修復作業を経て戻ってきました。この修復には蓮台寺地区の有志による保存活動が大きな影響を与えました。そこで今回は保存活動がどのように行われたのかを取り上げます。



修復から戻ってきた大日如来坐像

鎌倉時代に造られた大日如来坐像は国の重要文化財です

蓮台寺天神神社の大日如来坐像は、平安後期の遺風を残し、鎌倉時代初期に造られた高さ114.2cmの寄木造の仏像です。蓮台寺（廃寺）に元々あったと伝えられ、国の重要文化財に指定されています。この大日如来は髪を結び、宝冠を戴き、胸飾りのような装飾で身を飾るなど、他の如来像にはない独特の特徴があります。



天神神社の境内にある赤い屋根の建物(写真左)が大日如来坐像が収められている収蔵庫

下田まち遺産ニュース①

素敵な看板最優秀賞を受賞！

昨年11月、「伊豆半島景観看板大賞（主催：伊豆半島景観協議会）」で、ペリーロードにある「下田ペリーロード・蔵」が最優秀賞を受賞しました。看板（写真点線）そのもののモノトーンの落ち着いた造詣だけではなく、建物自体、そしてペリーロードという周辺環境に調和していることが評価されました。

看板（屋外広告物）は店舗へ誘導するために非常に有用なツールですが、目立てば良い、というものでもありません。時代の変化に伴った、素敵な看板づくりをあなたも目指してみませんか？

memo

「伊豆半島景観看板大賞」は平成29年7月～9月の間、伊豆半島にある素敵な看板を募集し、95件の応募がありました。①広告物のデザイン性、②周囲との調和、③周辺環境をリードしていくことへの期待、の視点で審査が行われました。



しっとりと落ち着いた看板と外観



周辺環境とマッチしています

下田まち遺産ニュース②

みんなで考えよう、下田まち遺産そして下田のみらい

平成30年2月17日、下田まち遺産こどもシンポジウムを市民文化会館小ホールで開催しました。浜崎、朝日、稲生沢小学校の3年生が舞台上で成果発表を行い、下田、白浜、稲梓、大賀茂小学校の3年生の学習成果が展示されました。

こども達ならではの目線から学習した下田まち遺産。お互いの小学校、地元の良さを分かち合う内容で、ときには笑いも起きつつも、みんな真剣な眼差し。各学校が学習テーマとした温泉、ジオ、ウミガメ、柿・みかん、ツバメ、旧町内の自然や歴史などは、どれも下田にとって大切に、未来に残したくなる気持ちがいっぱいになりました。

memo

下田まち遺産こどもシンポジウムは今年で9回目を迎えました。第1回目に発表した児童はもう成人を迎え、様々な道を歩んでいることでしょう。みんなの心に、それぞれの下田まち遺産が芽吹いていることを切に願います。

稲生沢小学校の生徒



朝日小学校の生徒



浜崎小学校の生徒

